

医療職および一般市民に対する新国際標準蘇生 (ガイドライン2010)教育体制強化の支援

安田 貢(医学医療系・講師)、水谷太郎(医学医療系・教授)、高橋伸二(医学医療系・講師)、
坂根正孝(医学医療系・准教授)

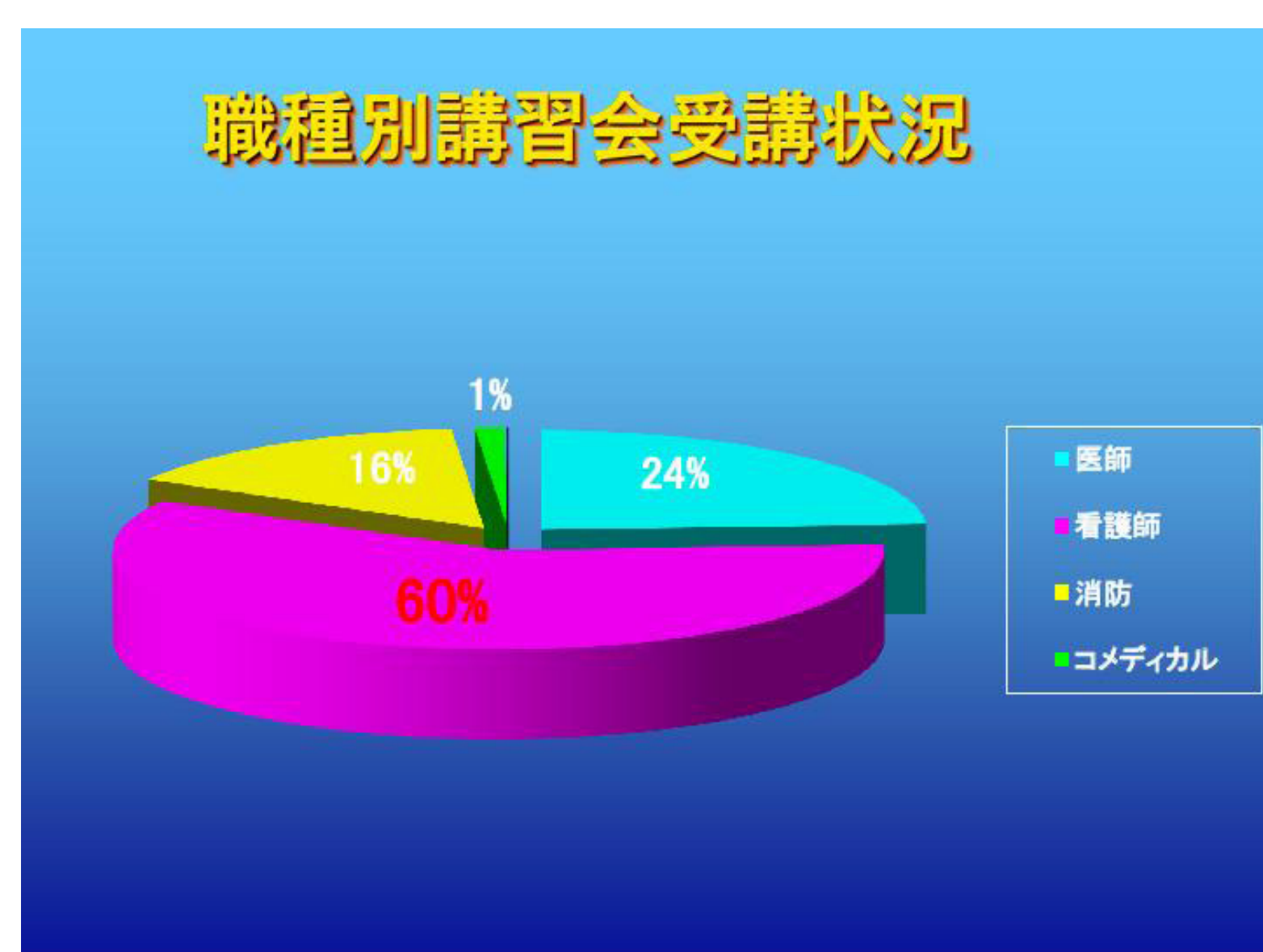
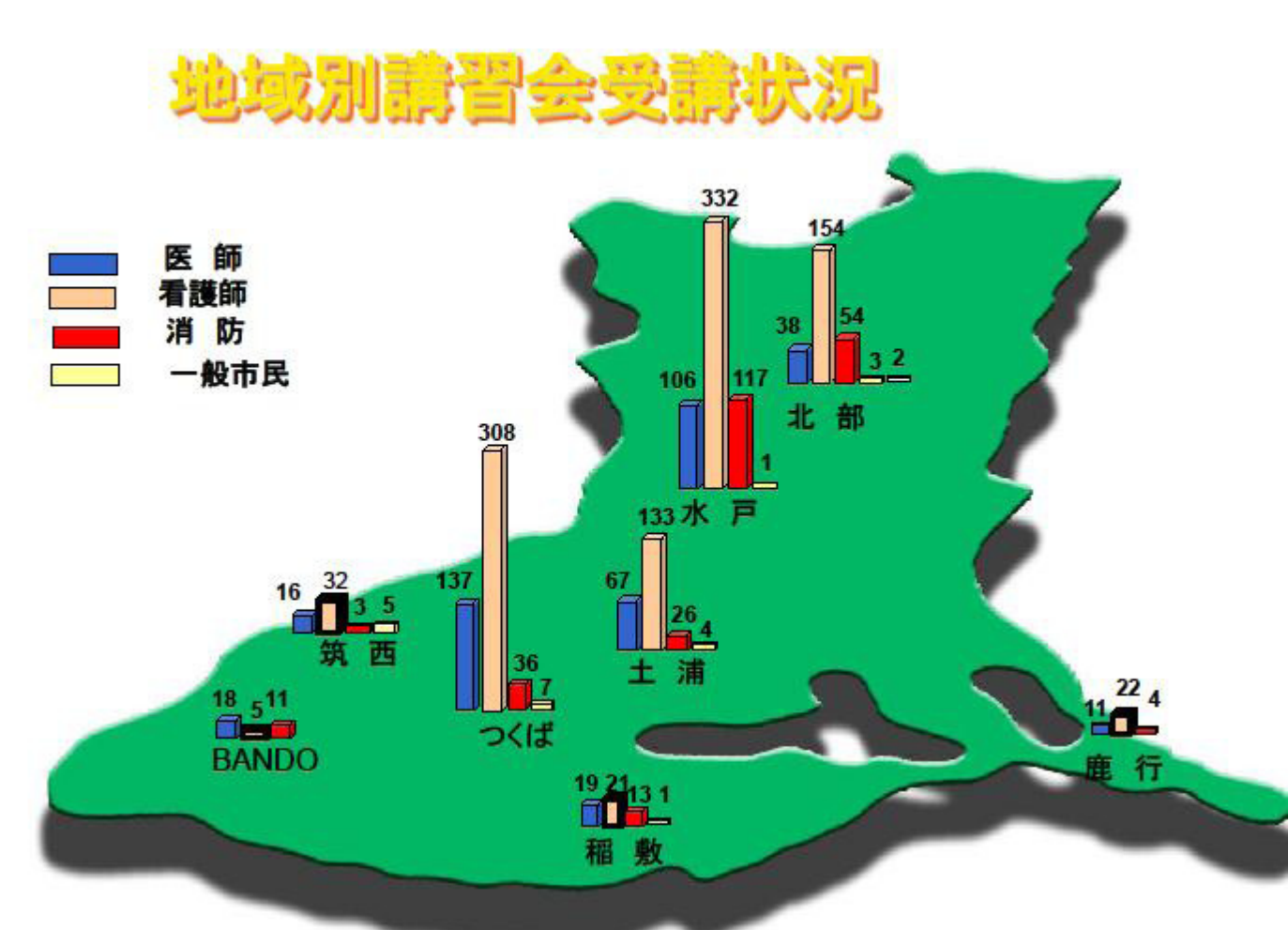
●背景・目的



- 最新のエビデンスに基づいた新蘇生ガイドラインが発表(平成22年10月18日)
- 日本の医療従事者・一般市民への最新蘇生教育は、欧米に比べ十分ではない

筑波大学を救急蘇生教育と社会貢献の拠点とし、最新の標準蘇生法であるACLS(二次救命処置)、BLS(一次救命処置)の理論、手技を医療関係者、救急業務関係者および一般市民に積極的に普及することにより、茨城県を日本における先進地域として心肺停止・重症不整脈・虚血性心疾患・脳血管障害による死亡と後遺症を軽減し、心肺危機に陥った市民の救命率、社会復帰率の向上を図ることにある。

●実施内容



- 年間研修会開催回数は、**79回**(過去最高・前年は69回開催)
 - * 東日本大震災の影響(予定会場が被災)で
平成23年4月初旬～中旬の研修会(6回)は中止
→4月下旬から再開・大震災復興支援コース
- 年間受講者数 **1586名**(過去最高数)
 - 看護職が受講者の半数以上
- 筑波大学社会貢献プロジェクトとして筑波大学以外に
県内各地(日立・高萩・水戸など)でも積極的に研修会を実施
→日本救急医学会総会演題発表時に高い評価を受けた

➤一次救命処置講習会(写真1)



➤GWの看護レクチャー(筑波大学臨床講義室・写真2)



➤アメリカ心臓協会・新ガイドライン講演会(筑波国際会議場)
アリゾナ大学・Dr Marc D. Berg(写真3・4)



●地方自治体等との連携

- 1) 茨城県医療対策課医師確保支援室: 茨城県内初期・後期臨床研修医対象BLS・ACLS研修会(救急ライセンス研修)
→教育カリキュラムの質の向上や専門医取得支援(好評のため次年度は開催回数の増加を予定)
- 2) 茨城県消防防災課・茨城県立消防学校: 消防初任科生対象BLS研修会(5月・11月)
県内救急救命士向対象ACLS研修会(12月)、消防職員BLS研修会(11-12月)
- 3) 茨城県医師会: 茨城県医師会員対象BLS研修会(3月開催)
- 4) 茨城県看護協会: 看護レクチャー、看護師対象BLS・ACLS・PALS(小児二次救命)・上級ACLS研修会(5月GW)
* レクチャーを含め約650名の参加(写真2)(日本最大規模の実技・教育研修)
- 5) 文部科学省5大学連携高度医療人養成GP: アメリカ心臓協会新ガイドライン講演(写真3・4)、後期研修医対象上級ACLS研修会
- 6) 茨城県地域メディカルコントロール協議会(つくば、水戸、北部、稲敷): 対象地域の医療、消防職員BLS研修会(写真1)

●成果と今後の展望

- 研修会指導者・修了者は、平時はもとより東日本大震災急性～復興期の救命事例など茨城県内各地で数多くの成果を挙げた。
- 筑波大学社会貢献プロジェクト支援により前年以上に受講機会の増加が可能であった。
- 多数の受講希望者に対応すべく、今後婦人防火クラブなどとの連携による研修会を計画中である。